

2016 年度
学校関係者評価委員会第 2 回議事録

日時：2016 年 11 月 7 日(金) 19 時～20 時 15 分
場所：15 教室

出席者：吉野たけし氏 山野 晴雄氏 小泉 昌広氏 永井 純氏
列席者：八尾 勝氏 倉持有希子氏 上松 剛氏 林 恵子氏

I. 聖書日課 テサロニケ信徒への手紙 1 第 1 章 3 節

YMCA・YWCA 共通の聖書日課「日々の糧」より林事務長が聖句とその解説を朗読した。

II. 議事

議長：吉野委員

1. 前回「記録」と「まとめ」確認

八尾校長より配布された資料 2「第 1 回会議記録」をもとに口頭で概略の朗読と説明があった。その後、学科長、事務長により補足説明があった。以下の通り。

<OT科立入調査について> 林事務長

東京都福祉保健局の立入指導調査が 10/5 に行われ、結果報告が届いた。指摘内容は以下の 2 点。

①教育上必要な機器備品で調査当日に確認できなかった物の所在の確認と不足するものがあった場合は備えること。②実習施設に係る変更申請が指定以降行われていなかったので早急に申請を行うこと。なお改善状況報告書を 11 月 18 日までに提出することとなっている。

<YMCAの特色とは> 介護福祉科 倉持学科長

介護福祉科ではカルツスピリットの「互いに愛し合いなさい」と「求められる人物像」を結びつけながら授業を行っている。また、ボランティア活動を通してコミュニケーション力の向上を目指している。具体的には石巻ボランティア、施設ボランティア、また今年は夏祭りに地域の人々を招いてプログラムを展開した。その結果、地域の相互乗り入れができた。2泊3日の山中湖キャンプでは、実践的なコミュニケーション力を特に意識し、利用者に対してだけでなく、社会に出た時、職員間でのコミュニケーションもとれることを目指している。ただし環境を整え過ぎてしまうと、社会へ出た時のギャップが大きすぎて学生達がついてゆけなくなってしまうことがあるので、その点が課題である。

作業療法学科 上松学科長

カルツスピリットの「互いに愛し合いなさい」とは「学生を決して見離さない」と理解し、愛情をもって学生と向き合っている。臨床家として求められる資質を念頭におきつつ、実技科目の充実、当事者との連携授業などの工夫の中で教員の後ろ姿を見せながら、学生達を引っ張っていきたい。

<多摩地区の高校との連携> 林事務長

「上級学校訪問」「職業体験」で中学、高校から依頼のあったものはすべて受け入れている。今年度は6校約100名の学生が来校し、福祉やリハビリテーションの話聞いた後、体験授業を行っている。少数ではあるがこの取り組みが入学につながっている。

今後は依頼を待つだけでなく、こちらから高校にアプローチしていくことも考えていきたい。

<入学者の線引き> 倉持学科長

介護を志す学生の質が低くなってきている現状の中、介護ならやれると勧められて発達障害のある学生が入学してくるケースが増えている。現在の2年生の内10数名がそれに相当する。実習の目標設定もかなり下げて、職員がマンツーマンでついてくれる中で実習を行い、一人一人丁寧に指導を行ったが、結果的に3名不合格となった。利用者の気持ちがわからない。意図が汲めない。コミュニケーションがとれない、技術が全くできない・・・etc.

YMCAブランドも意識したいが、運営上、入学者の3分の1が卒業できないというわけにはいかない。学校を継続していく責任がある。

場合によっては保護者を呼んで、ヘルパーや愛の手帳をとって障害者枠で働くことも視野に入れてアドバイスをしている。保護者と学校との関係ができているからこそできることである。

上松学科長

介護福祉科と同じ理由で線引きはむずかしい。最近の入試では学力よりメンタル面、健康面を重視し、その学生の良い点を見ようと努力している。

<資料請求者、OC参加者への対応> 林事務長

OC参加者に対し、教職員のコメントを入れたお礼のガキを送ったり、しばらくして再度案内を送付している。メールアドレスを書いてもらっているが活かせてない。委員から指摘があった通り、絶対逃さないぞ！という意気込みに欠けていた。

<留学生の受入れ> 林事務長

前向きに検討していきたい。まだ具体的な動きはないが、YMCAの日本語学校とも連携をとりながら進めていきたい。全国のYMCA日本語学校の在籍者は約2,500人いるがその内の1%しかYMCAの専門学校に進学していない。

<財務状況について> 八尾校長

資料3をもとに八尾校長から説明があった。全体的に悪くない数字である。ただし今後、学生募集の状況によっては軌道修正が必要になるかもしれない。

2. 次のアクション案

八尾校長より以下の通り説明があった。本日の委員会の位置付けは、PDCAサイクル（計画立案→実施→評価→それへの取り組み）の第3段階である「評価」に置かれている。前回会議では

実施の状況確認ということで自己点検結果を基に現状認識と課題の洗い出しを行った。今回はそれを次のアクション、すなわち「取り組み」につなげるための議論をお願いしたい。このあと、まずは学科ごとに提案をしていただく。

介護福祉科のアクション案 倉持学科長

- ①施設や地域とのつながりは継続して大切にしていく。
- ②学生の多様性（学力が低い学生、外国人など）に対応するための専門の教員を配置する。
- ③国試対策専門の教員を1名配置する。2年間の学習計画を現在作成中。

作業療法学科のアクション案 上松学科長

- ①教員がストレスケア、ファシリテーション等の研修を受ける。
- ②引き続き、専任教員からの課題は出さない。
2カ月経って学生の笑顔も増えて、授業へのくいつきもアップしている。
- ③OSCE（臨床実践能力を確かめる試験）を実施することで、実習に行く前に問題を抱える学生を拾い出せることがわかった。さらにやり方を工夫して実習につなげる。
- ④実習の評価表の見直し
- ⑤カリキュラム変更

八尾校長

以上、各学科の提案をもとに、学校レベルで取り組むことと合わせて行っていきたい。留学生の入学を見据えながら、教育方法や教員配置も立体的に行い、これまでのやり方を変えていきたい。

3. 委員からの提案、意見

山野委員

問題を抱えている学生のフォローは大変であろう。教員チーム、カウンセラー等で協力して対応にあたってほしい。介護福祉科のボランティアを通してのコミュニケーションカアップは継続してほしい。外国人留学生に関してはYMCAの日本語学校と連携をとることは良いと思う。専任の教員を配置すると言っていたが、想像外の補習も必要となったり、負担が増えることが懸念される。また高校との連携については、今後業者を通さずYMCAに来てもらえるような働きかけをすると良いと思う。

財務状況については高校の先生も気にしている。今後も財務情報を公開して安心感を与えることは大切である。

小泉委員

介護福祉士を育てる大変さ、人手不足については現場でもよくわかっている。だれもができる仕事ではない。相手を思いやれることが一番大切なことである。学生指導に時間がとられて大変だと思うが頑張してほしい。自分の職場に外国人がいるが、文化の違いの説明だけでも相当時間がかかる。専門の人の配置は必要である。

永井委員

倉持学科長から出た「愛の手帳」を取らせて、障害者枠で採用してもらう話は衝撃的だった。しかし教育現場でそこまでできるのはその人のことを思っていることだし、素晴らしいと思う。自分の職場研修で「開墾研修」として新人 60 名を対象に自営のキャンプを行った。はじめての試みで 2 泊 3 日のテント生活を送る中でコミュニケーション力がないとプログラムが進まないように企画されている。集う、競う、楽しむの 3 つをテーマに据え、愛のある人員を育てたいと考えている。実習前実技試験の結果を事前に実習先に伝えてもらえると、ハイパーのモチベーションもあがって良いかもしれない。財務状況については、退職給与が 100%積立られているのは驚いた。

吉野委員

両学科ともに、学生への思いが伝わり、自分の子供をこの先生になら預けられると感じた。広報とはそこではないだろうか？ また色々なイベントが国立市でも開催されているので Y M C A も積極的に参加してはどうだろうか。多くのボランティア団体や老人会なども関わっている。学生の人間力、コミュニケーション力にも役立つだろう。教員達はあまりかしこまらずにゆるい感じで関わるのが良いのではないか。留学生についてだが、自分の学校でもかつてブームだった時 40 名程度の留学生が入学してきたが、課題をきびしくしたら翌々年から来なくなるといった苦い経験がある。広報の仕方はしっかりリサーチすることが大切である。介護の就労ビザがおりることだけで安心はできない。またファッション業界で「N2 と同等レベル」で募集をした結果、質の悪い留学生が入学してきた例を知っているので、この点もしっかりリサーチが必要である。

最後に吉野委員より以下の通りまとめていただいた。

Y M C A の教育力は多摩地区の中でも高いと評価されている。厳しい状況の中ではあるが改革しながら今後も進めていってほしい。常に見直しすることをやめず、挑戦していってほしい。

4. その他

林事務長より、委員の皆様の任期は 3 月までだが、今年度の会議は実質今日で終了であることと、感謝の辞が述べられた。

つづいて八尾校長より来年度について以下の通りお願いと説明があった。今回の委員の皆様に来年度も再度お願いしたい。スケジュールは 4 月に委員の委嘱、5 月に学校見学等、10 月に第 1 回会議、11 月に第 2 回会議を行う予定である。

以上ですべての議事が終了し、吉野委員が議長の任を下りた。

八尾校長より吉野委員への感謝の辞が述べられ、本日の内容を踏まえて来年度の取り組みを進めていきたいとの挨拶で閉会した。

記録 林恵子